

滑川発 キラめく感性

若手芸術家3人作品展示

若手芸術家が滑川市に滞在し作品を制作する「滑川アーティスト・イン・レジデンス」の展示が18日、同市加島町の国有形文化財「田中小学校旧本館」などで始まった。約1カ月間滞在して感じた思いなどを込めたインスタレーション（空間芸術）作品を楽しめる。26日まで。

（長谷川竜也）



①鉄粉を付けてさびさせた和紙の作品を手がけた湯川爽海さん②滑川市の旧高嶋医院で③もみ殻を焼いてガラス玉の作品を作った水野渚さん④階段下に制作した作品を紹介するハ・トウイ・ハンさん⑤いすれも同市の田中小学校旧本館で

イベントは不動産業のアトム（東京）が主催し、同市の開催は昨年に続いて2回目。同社が開催する学生向けの公募展で受賞した水野渚さん（35）＝東京芸術大学大学院修士課程、湯川爽海さん（24）＝武蔵野美術大学3年

が参加。街並みが似ていることから「ランタンまつり」を開催するなど滑川市と縁があるベトナムからはハ・トウイ・ハンさん（36）が初来日し作品を展示している。

水野さんは、滑川市と射水市でとれた稲のもみ殻を焼き上げてガラス玉にした作品などを教室に展示。稲がとれた場所や農薬の有無によって黄緑色や琥珀色に変化するといった、「足元にある稲がその土地の歴史を反映している。自分の生活が色に反映することには思いをはせてほしい」と話した。

ハさんは、階段下を黒の



カーテンで仕切った空間で、ベトナムの伝統劇「トゥオン」を紹介する映像などを展示。「日本人や日本人に住むベトナム人に伝統を知ってほしい」と話した。

湯川さんの作品は、詩人の高島高（1910～55年）の生家である旧高嶋医院の全体を使用。鉄粉を付けた五箇山和紙に海水をかけてさびを付けたことで独特の雰囲気を出した作品や医院の蔵から出てきた古い木の箱などを医院の中にちりばめた。「建物と自分が作ったものが会話するような形で点在させている。空間全体を楽しんでほしい」と話した。

午後1時から同7時まで。入場無料。

